

組織内の能力開発・キャリア形成・人材育成

国際学部

国際学科

准教授 山崎 雅夫 Masao Yamasaki

教員情報



キーワード 能力開発、キャリア形成、地域研究

研究シーズの概要

広島市立大学国際学部卒業生のキャリア

広島市立大学国際学部は1994年の開学から30年が経過しました。この節目にあたり、卒業生の皆様がどのようなキャリアを歩み、どのような能力を発揮し、どのように成長してこられたのかを体系的に整理し、国際学部教育の成果と今後の教育改善に資する知見を得ることを目的として、本調査研究を進めています。

研究シーズの詳細

質的研究(インタビュー調査×帰納法分析)

山崎雅夫(2024)「ものづくり産業技術者の能力開発とキャリア形成に関わる要素の考察ー広島地域企業の卓越した技術者15名へのインタビュー調査から」において、質的研究(インタビュー調査×帰納法分析)による結果を残している。

ものづくり産業技術者(広島地域)へのインタビューにより、ものづくり産業技術者の能力開発およびキャリア形成に関する資料を得る手法を採った。本研究は、キャリアインタビューを用いている。キャリアインタビューとは、「ある人物のキャリアを聴取して有効な施策へと反映させる」手法である。

インタビュー方法は、半構造化形式で1人につき約1時間半～2時間程度、内容については後日確認を行った。インタビューの音声データを保存している。起点となる質問内容は、①どんな仕事をしてきたか、②目標となる上司・先輩がいたか、③目をかけている部下・後輩に対して思うこと、④ベテランと思われる条件、である。質問内容は、山崎(2020)および山崎(2023)に基づくキャリアインタビューである。また、本研究の特徴である地域の特性までを対象とする研究は少ない。なお、地域の特性は、広島地域に本社を置く企業の技術者から共通する点を探るという方法をとっている。以上のように、キャリアインタビュー手法に基づいて、インタビュー方法の設定を行ったものである。

分析方法は、帰納法を採用している。帰納法は、複数の事実や事例から導き出される共通点をまとめ、共通点から分かる根拠をもとに結論を導き出す方法である。分析では、インタビューや発話などの質的データをカテゴリにまとめ、短い語句やキーワードで表された多様な発想を整理する。帰納法のプロセスは、共通点でいかに囲えるかがポイントとなる。以上の方法をもって、広島地域の技術者の能力開発・キャリア形成には何が必要かを分析した。帰納法に従い、各質問内容に基づいて共通点をまとめ、表札と全ての表札の統合を整理している。

なお、本研究シーズにおける学術的背景としては、国内外の先行研究において、大学教育が卒業生のキャリア形成・能力開発に与える影響が注目されている点が挙げられる。また、卒業生調査(alumni survey)は大学教育の質保証(quality assurance)や教育改善の基礎資料として国際的に広く用いられているものである。

応用例・セールスポイント

- ◆用途：組織内の能力開発・キャリア形成・人材育成に関する知見を得る。
- ◆応用例：採用や離職防止に関する知見が得られる。
- ◆企業等へのセールスポイント：問題・課題の発見。質的研究(インタビュー調査×帰納法分析)。

【問い合わせ先】 広島市立大学 地域共創センター 〒731-3194 広島市安佐南区大塚東3-4-1 (情報科学部棟別館1F)
TEL:082-830-1764 / FAX:082-830-1555 / E-mail:ken-san@m.hiroshima-cu.ac.jp